丸山湿原群保全の会会報

（第 128 号）

発行日：平成 30 年３月 14 日　編集／発行：丸山湿原群保全の会

〒669-1211　宝塚市大原野字炭屋 1-1　西谷地区まちづくり協議会事務局内
TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061（今住）
E-mail：maruyamashitugengun@gmail.com

やっと春めいてまいりました。日も長くなりまもなく春分の日。お彼岸ですね。「暑さ寒さも彼岸まで」とはいいますが、近年はどうでしょうか？人の世の中が２極分化するのに合わせ、自然も２極分化していっているみたいです。人の活動が影響しているのか？はたまたちょっとした地球の体調変化か？地球の体調変化は人類ぐらい簡単に絶滅へと追い込むでしょう。自然の一員という意識を常に持ちたいものです。

東日本大震災から７年。暴走するとコントロールできない原子力。発電所はまだ手付かずの状況。神の領域の安易な利用は、武器を含めよく考えなければいけないのではないでしょうか。津波は自然現象。事故は人。どちらが取り返しのつかないことになるのでしょう。

18,455 名の死者・行方不明の方のご冥福をお祈りいたします。

（今住　３月 13 日作成）

環境学習

★西谷小学校３年生　最終回　保全作業学習　２月 16 日（金）

早いもので５月の座学から始まった環境学習ですが最終回を迎えました。フィールドは３回目。初夏、秋、冬の季節を味わい学習できるのは西谷小学校ならでは。まー西谷の場合、身の回りを見ていても十分なような気もしますが、兵庫県天然記念物「丸山湿原群」で学習する意義は大きいと思います。ここでの学習が身近な自然環境とどう向き合うかにつながると。

ヌマガヤの運び出し　すごいパワー

さて実際の活動です。この時期は両生類（カスミサンショウウオ・アカガエル類）が産卵を迎えます。絶対見られますよと先生には宣伝しておきました。卵について学習してきたかどうかは？ですが。多分していたような…

今回の活動のメインは保全作業学習。所詮小学３年生。たいしたことはできないだろうと思っていました（実は昨年も）。メニューは湿原内で刈り取ったヌマガヤ・ススキの運び出し。放置倒木の伐採（ノコギリ作業）。ところが、作業を任せると少人数ながらテキパキと進みます。ノコギリもばっちり。やはり、場面が変わると張り切るようです。想像した以上の作業ができ、大変助かりました。これで今年もたくさんのサギソウやハッチョウトンボが見られるに違いありません。保全活動はキャリア教育にも通ずる活動ではないでしょうか。また、自分が人（丸山湿原）に必要とされていると感じたときに力が出せるに違いありません。我々も同じです。

こちらはノコギリ隊　けがの心配不要でした

作業終了後は、ご褒美に湿原内の観察です。基本、湿原内への立ち入りは禁止ですが今回は作業もあり、カスミサンショウウオやアカガエル類の卵塊も見られるのでは、と特別に観察が許可されました。子どもたちが喜ぶように一応下見はし

フレッシュな目が卵塊を！大人が群がる

てありました。しかし今年は寒波のせいかカスミサンショウウオの卵塊が見当たらない！アカガエル類の卵塊で辛抱してもらおうと諦めていました。（アカガエル類も希少種）

ところが、我々の目をはるかに超える力を子どもは持っていました。カスミちゃんを。しかも同定まで。あちゃー！こっちが教えてもらう事となりました。若い力に脱帽です。ありがとうございました。

これからが産卵の全盛。両生類卵塊数調査にもぜひ来てほしいと思いました。**（実際来てくれました。）**

その後、冬の植物（果実・種・枯れ葉）観察をしてお別れとなりました。参観日で発表会をするとか？（した？）

これからも是非丸山湿原へお越しください。そして「丸山湿原群保全の会」に入会しよう！（未成年、学生からは会費徴収なし）待ってるで～。

活動報告　★2 月 25 日（日）定期活動　６名で活動　ヌマガヤ運び出し作業！ライン張り！

環境学習で子供たちがヌマガヤ類を運び出してくれましたがまだまだあります。両生類卵塊数調査のセンサスラインも張らなければなりません。

調査用センサスラインの設置

刈り取りは刈り払い機で充実感あり。**ところが運び出しはつらい！嫌になる！やめたい！ぐったり！というのが本音。でもやらなければ。と考えると、先日の小学生は本当に力となりました。**

辛い！嫌や！やめたい！ヌマガヤ運び

湿原が我々を必要としている。両生類調査の時、草茫々の中ではあまりにも…。もちろん湿原のリフレッシュが目的です。**草が腐り富栄養化になるのを防ぐ。ヌマガヤが多く生えない状態を作れればいいのですが、刈り取りが精いっぱいの状態です。ヌマガヤは湿生植物ですが、湿原の末期を象徴する植物です。**株ごと除去もしくは水量を増やせればいいのですが…。**次にやってくるのがススキやイヌツゲ、ササ。何とか刈り取りだけでも毎年続けていきたいものです。**生物多様性という観点からは多くの環境が存在するほうがいいのですが。ここは湿原。とにかく刈り取りです。そして運び出し！その間にセンサスライン張りを同時進行。張り終わると運び出しに合流。

昼食終了　快適ヌマガヤベッド

第 1 湿原の運び出しは午前中にほぼ終了。今日はこれぐらいにしといたろ。と、思った瞬間午後もやりましょうと。しかも皆さん弁当持ち。えっ！みんなそんなにまじめやったん？エライな～とびっくり。私、弁当持ってませーん。バナナが飛んできました。パンチではなくパンも飛んできました。🍙も。感謝。食べて昼寝。まったりすると仕事がいやになりますが。百姓さんはすごいなといつも思います。私も百姓や！エライ？体が…。

午後は第 4 湿原の運び出し。これで刈り取った分は片付け終了！でもまだ第 4 湿原上部が刈り取りも含め残っています。が、今度こそ今日はこれぐらいで勘弁しといたろです！**残りは次回に。我々は必要とされているのだ！（自己有用感といいます。人には絶対必要！）**

第 4 湿原の作業後　上部はまだ茫々

丸山湿原セミナー・両生類卵塊数調査

★3 月 4 日（日）兵庫県立宝塚西谷の森公園多目的室・丸山湿原
午前：セミナー参加者 58 名　午後：両生類卵塊数調査 47 名

高校　生物部　顧問と受付

なんと 12 回目を迎える両生類のセミナーと調査です。講師も 12 年連続で田口勇輝氏（博士　地球環境学）ハンザキ研究所理事、広島市安佐動物公園技師。

凛とし説明される田口氏

オオサンショウウオをこよなく愛し研究されている方です。三田の「人博」にも以前勤務されていて、兵庫のオオサンショウウオを調査されました。今や世界的権威。

今回のテーマは「カスミサンショウウオとオオサンショウウオ」。丸山湿原にはオオサンショウウオはいませんがカスミサンショウウオは多く生息。というより、西谷で湧水があればどこにいてもおかしくないサンショウウオです。この 2 種を比較し、どう違うのかをわかりやすく説明していただきました。オオサンショウウオも実は、武庫川水系、猪名川水系にいます。羽束川、ひょっとしたら波豆川にもいるかもしれないサンショウウオです。国の特別天然記念物（S27 指定）ですが、私が小学生の頃には学校（西谷小）の中庭で飼われ？ていた。法律違反です。知らないとは恐ろしいもので、よく棒でつついてかわいがったものです。ミミズをやったり。それはそれは恐ろしい生き物だと先生方は教えてくれました。覚えておられる方も多いと思います。のちに貴重な生き物と判明。しばらく中学校の水槽で展示。ガリガリでした。その後はどこへ行ったのかわかりませんが大事にされたのでしょう。

なんと 58 名の受講者

今回のお話でオオサンショウウオは、1 年の成長スピード約 5mm。最大約 150cm。シーボルトが持ち帰った個体が 51 年生きたことから最高 100 年以上は生きると説明が。しかも再生能力あり。（指など）

どちらも環境省の絶滅危惧Ⅱ類に指定。しかし、カスミサンショウウオは法的規制がありません。どちらが絶滅の危険性が高いかというと？？？環境破壊が絶滅の最大要因。カスミサンショウウオの場合は、水辺と山の連続性が維持できるかどうかです。コンクリートで作られた溝は両生類にとって最大の脅威になっています。

47 名の調査員　記念撮影

午後は丸山湿原へ。これも田口先生同行で卵塊数調査。47 名という始まって以来の人数にどう対処するか？湿原への踏み込み自体が卵を破壊する恐れや環境変化をもたらす可能性大です。午前中の田口先生の説明にもありました。

結局、あまり卵塊が無さそうな場所も含め、5 班に編成。約 10 名ずつエリアを決め調査していただきました。場所決めはじゃんけんで。ありがたいことに湿原に着く手前の旧道、水の流れ道になっているところに、松の枝にくくりつけられたようなカスサンショウウオ卵塊が、6 対ほど調査に入る前に見つかりました。期待は膨らみましたが、第 3 湿原・第 4 湿原は卵塊見当たらず！残念！

湿原手前の旧道　カスミ卵塊に群がる

カスミ卵塊・田口氏撮影

ニホンアカガエル卵塊を指さして

しかし、あなたの踏み込んだ一歩が卵を踏んでいたかもしれない。え～！注意深く。注意深く。

第１湿原でニホンアカガエルと思われる卵塊とカスミサンショウウオの卵塊がたくさん見つかりました。調査結果はニホンアカガエル卵塊２８。カスミサンショウウオの卵塊２０対。産卵が遅れたにしては昨年と同じぐらいの数でした。まだまだ産卵は続くと思われます。

ニホンアカガエル卵塊・田口氏撮影

毎年見られることが奇跡といわれないよう願ってやみません。「新たな希望が！」小学生（西谷）や高校生（尼崎、加古川、篠山）・大学生が多く参加してくれました。皆さんの宣伝のおかげです。来年もよろしくお願いします。参加人数は増えても対応策は万全です。でもそれはひ・み・つ！（想像つくと思いますが…つかない？）

定期活動　★３月１０日（土）定期活動　７名で活動　晴（里大新卒フレッシュマン？１名を含む）

定期基礎調査、巡回、ごみ回収、観察、外来種除去

目的	市内	市外
丸山	45	34
ハイキング	9	0
その他	10	0

来場者数　計９８人
（竹筒ポスト人数）

場所	時間	気温【水温】	電気伝導度（EC）	PH
入口	10：03	38.6℃		
視点場	10：45	7.2℃		
第３湿原	10：25	【9.2℃】	28.9μS/cm	7.2
第１湿原	10：56	【11.5℃】	26.5μS/cm	7.8
第２湿原	11：24	【14.4℃】	30.9μS/cm	7.3

【湿原・活動の様子】セミナーから１週間、だれも入れない？竹筒カウンターは９８人。半分は調査参加者。と、考えると増えてますね。知名度が上がってきたのか。ヤマガラやシジュウカラのさえずりが気持ちいい。「聞きなし」という言葉をご存知でしょうか？鳥など動物の鳴き声を人が表現しやすくしたもの。ホトトギスは「テッペンカケタカ」これは有名。ヤマガラは「ツツピー　ツツピー」、シジュウカラは「ツピーツピーツピー」だとか。西谷では「ツチクテムシクテシブー（土食て虫食て渋～）」のツバメが有名。私の周りだけか？言いえて妙な聞きなしと思いますが。どこかで話したとき笑われました。「聞き」「なす（倣＝まねる）」。犬の「ワン」も聞きなし。

撤去され積まれた柵杭

湿原では柵の更新で撤去作業が進んでいました。残念なことに、両生類調査時に確認された旧道（水路になっている）にあったカスミサンショウウオの卵塊（前出の写真）の上に、凸凹を埋めるため廃棄丸太が並べてありました。卵塊は見事下敷き。と思ったら主要な卵塊は水の流れのおかげか横から顔をのぞかせていました。作業が続くことを考え、翌日適地に移動しました。（ミティゲーションといいます。）通路は見落としがちですが、特別な場所であることを意識して工事してほしいと要望しておきました。詳しくはブログをご覧ください。第２湿原の卵塊確認。第５湿原も覗いてきましたが厳しい状況です。

越冬した天狗様

テングチョウも多数飛び始めました。天狗の鼻のように口元？がとがっています。厳冬をどこに隠れてやり過ごしたのでしょうか？自然は不思議だ！

次回活動日３月２５日（日）最後のヌマガヤ刈りとライン外し　４月１４日（土）定期調査
４月２２日（日）５月１２日（土）アッという間の１年です。歳取るはずです。あ～！